

**ウルトラパッチ
歩道橋施工要領書**

2010年8月

2017年11月改訂

阿南電機株式会社

施工上の注意と警告

ウルトラパッチを安全に使用していただくために必ず守ってください！

※雨天時には施工しないで下さい！

- ・ **大量の紫外線は人体に有害です**
強力な紫外線ランプを使用する場合は眼、肌の保護のために必ず紫外線保護めがねと保護手袋等を着用し専門知識を有する安全管理者の元で作業をしてください。
- ・ **硬化前の本製品にはスチレン刺激臭があります**
大量に吸い込みますと気分が悪くなったり頭痛になったりする場合がありますので注意してください。特に閉鎖的な場所では換気に注意するとともに防毒マスクを着用してください。
- ・ **本製品にはグラスファイバー（ガラス繊維）が含まれています**
万一硬化前の本製品が眼に触れた場合は速やかに流水で洗浄し、必ず専門医師の診断を受けてください。
- ・ **本製品は接着剤が含まれています**
アレルギー体質や敏感肌の方が本製品に触れる場合は必ず手袋を着用してください。また素手で本製品に触れた後はよく手を洗ってください。
- ・ **子供の手の届かない所に保管してください。また直射日光を避け、涼しく換気された場所で保管してください。**
誤飲、いたずら等思わぬ事故の原因となる恐れがありますので保管には十分注意してください。本製品の保管期限は6カ月間です。開封後はできるだけ早く使用してください。
- ・ **真夏など炎天下では紫外線が多いため硬化が速くなります**
作業中硬化までは日除け等で直射日光を受けないようにして敏速に作業を行ってください。

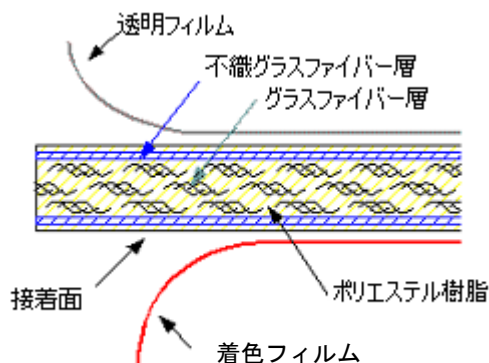
ウルトラパッチの成分・構造と適合規格

◇主成分：ポリエステル樹脂（含6%スチレン）・ガラス含有率 約21%





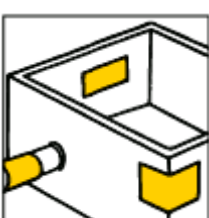
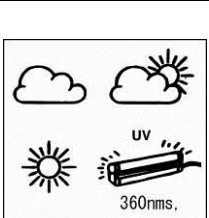
◇構造：下図（断面図）

◇適合規格：食品衛生法・食品、添加物の規格基準適合 [12 高セ第 0-0250 号]

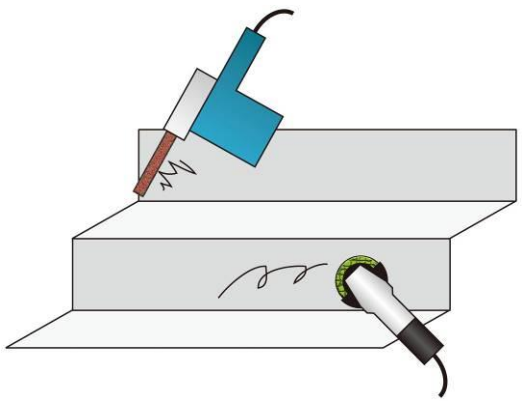


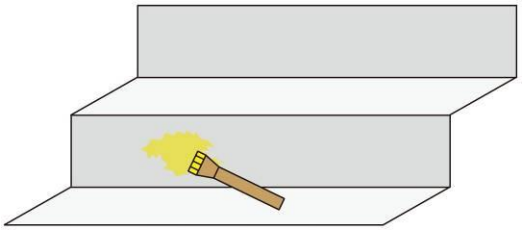

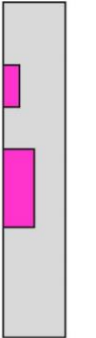
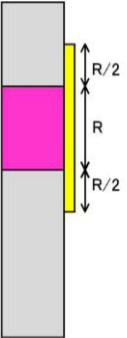

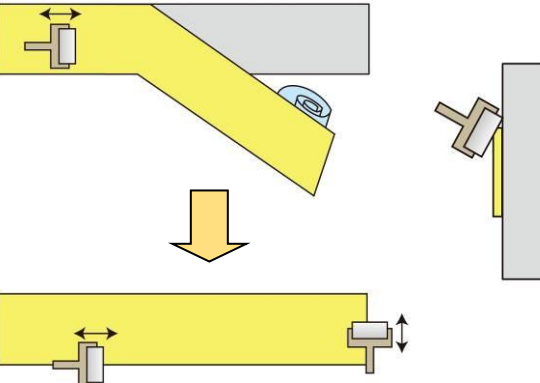

JIS A 1322 「建築用薄物材料の燃焼性試験方法」による防災1級合格



ウルトラパッチの基本的な施工手順

	<p>1：接着面の前処理をします。</p> <p>貼り付ける場所をブラシ、グラインダー等でケレン(2種以上推奨)します。錆・汚れ・油脂・ワックス等をきれいに取り除き、表面を乾燥させます。</p> <p>※この処理がウルトラパッチの接着力に影響します。貼り付ける表面はできる限り丁寧に仕上げてください。</p> <p>※硬化する前のウルトラパッチは水分・油分を嫌います。</p>
	<p>2：型取りをして切断します。</p> <p>シートはハサミやナイフで簡単に切断できます。</p> <p>貼り付ける場所に応じた形にするにはあらかじめ新聞紙などで型紙を取ると簡単です。</p> <p>※ウルトラパッチを重ねて貼る場合は重ねしろを考慮してください。</p>
	<p>3：接着面の保護フィルム(水色)を剥離しますと接着面が現れます。</p> <p>※露出した接着面にはできるだけ触れないでください。ホコリや皮脂などが付着すると接着強度が弱まります。</p>
	<p>4：成型します。</p> <p>貼り付ける場所の形状に応じて変形させます。</p> <p>※角部など複雑な形状に貼る場合はあらかじめ形を整えておくと簡単に貼り付けることができます。</p>
	<p>5：貼付けます。</p> <p>端部または中央部から気泡が残らないように強く押さえ付けます。</p> <p>※重ねしろを作る場合は下側になるウルトラパッチ表面の透明ナイロンフィルムを剥離してから重ねてください。</p> <p>※貼り付ける場所の形状が大きい場合は保護フィルム(水色)を剥がしながら貼付けると簡単です。</p> <p>※貼り付け後、表面の透明ナイロンフィルムを必ず剥がして下さい。</p>
	<p>6：太陽光線で硬化します。</p> <p>時間は快晴時 1時間～。</p> <p>屋内及び曇天の場合は、紫外線ランプを用いて硬化させて下さい。</p> <p>硬化後は、穴あけ、サンドがけ、塗装をする事もできます。</p>

施工手順

作業手順	参考写真	注意事項															
<p>① : ケレン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 錆及び旧塗膜を完全に除去し、鋼材面を完全に露出させる (2種ケレン)。 ・ 入隅部はリューター等で念入りに処理する。 <p>(必要な道具) ディスクサンダー、ベルトサンダー、リューター、ワイヤーブラシ サンドペーパー</p> 	<p>良い</p>  <p>悪い</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下処理が不十分の場合、防錆効果が十分に発揮できない恐れがある。 															
<p>② : 脱脂/プライマー塗布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アセトンにてケレン面を脱脂。 ・ 施工面にプライマー (ポリライトプライマーPD) を塗布する。 ・ 塗り残しがないよう2度塗りを行う (全面に艶がでる)。 <p>プライマー塗布後に埃等が付着した場合は、 (ウエスで清掃後、再度プライマー塗布を行って下さい。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要に応じて③に順じて不陸調整を施す。 <p>※ポリライトプライマーPD=湿気硬化型ウレタンプライマー1 液性</p> <p>(必要な道具) ウエス、刷毛、バケツ (小分け用)、アセトン、ポリライトプライマーPD</p> 		<ul style="list-style-type: none"> ・ アセトンの代わりにシンナーで脱脂すると油分が残る恐れがある。 ・ 油分、水分が残っているとパッチが剥がれる原因となる。 <p>【プライマー硬化時間】 気温：10℃ 4-10 時間 20℃ 2- 5 時間 30℃ 1- 3 時間</p> <p>上記は硬化時間の目安。塗布面を指で押して指紋が付かなければ硬化完了 (触指確認)。</p>															
<p>③ : 不陸調整</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 不陸部については、ガラス繊維入りパテ (MGパテ) を充填する。 ・ 欠損部 (穴) がある場合には、背面を閉塞してからパテを充填する。 <p>(必要な道具) ヘラ、練り板</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="1231 1102 1439 1491"> <p>凹凸の場合</p>  <p>表 裏</p> </div> <div data-bbox="1498 1102 1706 1491"> <p>穴の場合</p>  <p>表 裏</p> </div> </div>		<p>【パテ可使時間】</p> <table border="1" data-bbox="2329 1134 2745 1312"> <tr> <td></td> <td>25℃</td> <td>30℃</td> </tr> <tr> <td>硬化剤：0.5%</td> <td>80分</td> <td>35分</td> </tr> <tr> <td>1.0%</td> <td>40分</td> <td>20分</td> </tr> <tr> <td>2.0%</td> <td>22分</td> <td>10分</td> </tr> <tr> <td>3.0%</td> <td>17分</td> <td>8分</td> </tr> </table> <p>硬化時間は大凡 1-2 時間。指で押して凹まなければ硬化完了。</p>		25℃	30℃	硬化剤：0.5%	80分	35分	1.0%	40分	20分	2.0%	22分	10分	3.0%	17分	8分
	25℃	30℃															
硬化剤：0.5%	80分	35分															
1.0%	40分	20分															
2.0%	22分	10分															
3.0%	17分	8分															
<p>④ : ウルトラパッチ貼り付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 接着面の着色フィルムを剥がし、端部から空気が入らない様に貼り付ける。 ・ 全面貼り付けを行ったら、シームローラー等で接着面に十分に密着させる。 ・ 端部は、密着が不十分だと硬化時に浮きあがることもあるため、シームローラーまたは指圧等で押しつぶすように仕上げる。 <p>(必要な道具) シームローラー、カッター、ハサミ、ウルトラパッチ</p> 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 接着面の着色フィルムは、徐々 (5-10cm 程度) に剥がす。 ・ 屋外でウルトラパッチを加工 (裁断) する場合には、硬化する恐れがあるため、紫外線を遮断する措置を施す必要がある。 															

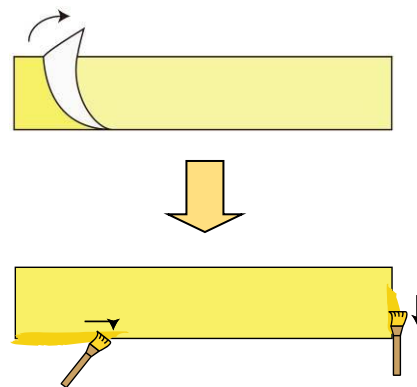
施工手順

⑤：保護シート剥がし

- ・ウルトラパッチを施工面に貼り付け、表面の透明フィルム（保護シート）を剥がす。
- ・この際、ウルトラパッチが浮き上がることもあるので、再度シームローラー等で密着させる。
- ・ウルトラパッチペーストを使用し、ウルトラパッチの外周、シートとシートの継ぎ目の端部処理（シール処理）を行う。

（必要な道具）

シームローラー、ウルトラパッチペースト、刷毛、手袋



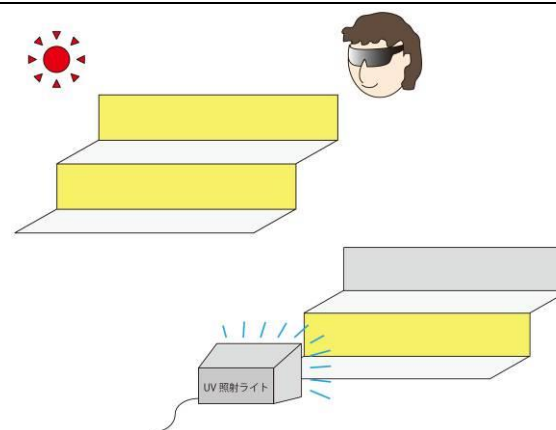
- ・塗装を施す場合、表面の透明フィルムを剥がさず塗布した場合、塗膜が剥離する原因となる。

⑥：ウルトラパッチ硬化

- ・貼付後、太陽光もしくは紫外線照射装置（UV照射ライト等）を使用してウルトラパッチの硬化を行う。（紫外線照射 1～2時間）

（必要な道具）

紫外線照射装置、紫外線保護メガネ



- ・硬化作業は貼付後、速やかに行う（翌日作業不可）。
- ・ウルトラパッチは太陽光で、1～2時間で硬化（季節及び現場状況により異なる）。
- ・紫外線照射装置を使用する場合、紫外線対策（紫外線保護メガネ等）が必要。

⑦：ウルトラパッチ硬化確認

- ・紫外線照射 養生時間の確認を行う。
 - ※太陽光下で1時間以上の養生を行ったか確認する。
 - ※紫外線照射装置 ANM-048N、HUV-400、HUV-100 を使用した場合、
施工箇所から 30 cm程度離れた場所に設置し1時間以上の紫外線照射を行ったか確認する。
 - ※紫外線照射装置 FUV-20、FUV-40 を使用した場合、
施工箇所から 5 cm以内の場所に設置し 1.5 時間以上の紫外線照射を行ったか確認する。
- ・ウルトラパッチ表面を爪、カッターなど鋭利な物で引っ掻き、硬化している事を確認する。
（ウルトラパッチが柔らかい、えぐれる、切れる等、未硬化の場合は、追加で紫外線照射を行って下さい）
- ・ウルトラパッチの端部に浮き上がりが無いか指触・目視で確認する。

（浮き上がりがある場合は、ウルトラパッチペースト（端部処理剤）を使用し端部処理を行って下さい。）

注）ササラ桁、高欄、地覆においても同様の手順にて施工する。